

2007 **hunger free world**

特定非営利活動法人 **ハンガー・フリー・ワールド**

2007年4月1日

2008年3月31日

年次報告



時計の針を戻してはならない

ハンガー・フリー・ワールド（HFW）は、2000年の発足以来、活動のゴールである飢餓の終わりに向かって、開発途上国の人々の自立を支援する開発事業に取り組んで参りました。

2007年度は、おかげさまで4ヵ国で4万7598人の方々に支援することができました。

これも、HFWに対する、みなさまの物心両面にわたるご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

私たちは着々と飢餓撲滅へと歩を進めてきました。

しかし、気がつけば今、世界は原油・食料価格の高騰や気候変動などの影響による食料危機に直面しています。

この危機が速やかに回避されなければ、2008年の終わりまでに新たに1億人が飢餓状態に陥るとわれています。

ここで時計の針を戻すことがあってはなりません。

2008年は、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）と北海道・洞爺湖G8サミットが日本で開催され、注目を集めています。

これは私たちが、日本を始めとする先進工業国の首脳に、世界の飢餓を終わらせることを訴える大きな機会です。

日々、飢餓に苦しむ人々とともに活動しているHFWには、彼らの自立支援をより一層強化するとともに、

これらの機会に、飢餓が生み出される世界の仕組みを変える提言を行う責任があります。

HFWは、国内外のNGOと連携し、人類史上、最古の、最大の問題である飢餓の終わりに向けて、時計の針を進めます。

みなさまのHFWに対するより一層の、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

理事長 河合政実



4万7598人を支援しました。

海外の活動

HFWは、飢餓に直面する人々が、「食べる」という人間としてもっとも基本的な権利を取り戻すため、貧しい地域を対象に開発事業を実施しています。

開発事業におけるHFWの支援方針は、支援が終了しても、永続的に飢餓のない状態を維持するために、人々の自立を促すこと。そのために、栄養改善だけでなく、教育、保健衛生、収入創出、ジェンダー平等の推進、環境の6分野で、地域住民を主体とした事業を行っています。

2007年度は、バングラデシュ、ベナン、ウガンダ、ブルキナファソの4ヵ国で33の事業を実施し、新事業に着手すると同時に、継続事業の質の向上にも努めました。ウガンダでは、新たに女性対象の有機果樹栽培事業に着手し(8月)、HIV/エイズなどで夫や親を失い弱い立場に置かれた女性の自立を支援しました。また、ベナンでは幼稚園運営など教育事業を継続し、子どもたちが幼児～中等教育まで受けられる環境を整えました。

これらの開発事業に加えてアドボカシー活動も精力的に展開。バングラデシュ支部では世界100ヵ国以上で行われている貧困根絶キャンペーン「GCAP」のバングラデシュ版「People's Forum on MDGs」で中心的な役割を果たしました。

また、2006年度から支部昇格準備を進めてきたベナン準支部は支部へと昇格しました(4月)。ブルキナファソ準支部は新しい事務局長を迎え入れ(3月)、2009年度の支部昇格に向けて準備を進めています。

国内の活動

HFWは、飢餓を自分自身の問題として考え行動するよう呼びかけ、多くの人々に気軽に参加できる機会を提供できるよう、国内の活動を展開しています。

2007年度は、バングラデシュ支部事務局長の来日に伴い、アジアの貧困問題を見つめなおすシンポジウムを開催しました(8月)。また、10月16日の世界食料デーに向けて、世界銀行情報センターとの共催イベントを実施するなど(7～10月)、多くの方に飢餓の現状やHFWの活動を知る機会を提供しました。

食をテーマにした定期的な寄付制度「ひとつづ募金」を導入したほか(10月)、書損じハガキなどの回収事業も継続。青少年の主体的な活動の支援として、HFWの青少年組織ユース・エンディング・ハンガー(YEH)ジャパンが行った国内の広報活動、海外YEHの国内会議開催のための資金調達活動等に対してアドバイスをを行いました。

世界貧困撲滅デーに実施された「STAND UP SPEAK OUT」では実行委員を務めました。またTICAD IV・NGOネットワーク(TNnet)の運営委員を担い、2008年G8サミットNGOフォーラムに参加するなど、他団体と協力・連携したアドボカシー活動にも注力しました。そのほか、外務省主催NGO研究会への協力など、市民社会の能力強化に向けた講師派遣や執筆活動、提言活動に取り組みました。

組織運営に関しては、インターンと多くのボランティアの活用を継続し、経費を抑えながら事業を推進することができました。また、業務拡大に伴い、本部事務所を移転しました。



バングラデシュ

事業地域を絞り、活動の質を向上。

持続可能な農業への取り組みが、内外から高く評価されています。

活動するボダ郡カリガンジ郡の22ヵ村で栄養改善や環境などの16事業を実施しました。

持続可能な農業への取り組みとして、ボダ郡の農業訓練センターの運営を継続。NGO、政府関係者やマスコミ、カリガンジ郡の農家の訪問を受け、持続可能な開発に果たす有機農業の重要性について話し合いました。センターでは、伝統医療や薬草などを利用した健康改善指導にも取り組みました。またYEHは、サイクロン被災地でのボランティア活動などを行いました。

アドボカシー活動として、独立50周年の2021年までにバングラデシュの飢餓を終わらせることを呼びかけるキャンペーン「ビジョ

ン2021」を継続。全国の子どもたちを対象に「2021年のバングラデシュ」絵画コンテストを実施しました（2月）。また各アジア地域GCAPの代表を集めフィリピンで行われた「アジア地域ODA会議」に出席するなど、アドボカシー活動を行うNGOの中心的役割を果たしています。

運営面では、活動の質の向上のため、事業地域を絞る必要があると判断し、バングラ郡地域事務所を閉鎖（2月）。同地域ではその後も、HFWの事業を通じて設立された住民組織が自立して活動を継続しています。

2008年度は、2006年度に住民とともに策定した活動地域ごとの中期計画の最終年です。村ごとに住民主体のワークショップを行い、これまでの事業評価および新しい中期計画の作成を進めます。



バングラデシュ人民共和国 ●面積:14万4000km² ●主要産業:縫製品・ニット製品産業、水産業、ジュート加工業、農業 ●人口:1億5599万人
●言語:ベンガル語(国語) ●宗教:イスラム教徒89.7%、ヒンズー教徒9.2%、仏教徒0.7%、キリスト教徒0.3% ●5歳未満児死亡率:1000人中69人
●1人あたりの国民総生産:480米ドル ●平均余命:63歳 ●成人識字率:48% (参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2008」)

開発事業例

開発事業一覧

- 環境保全のための植林(持続可能な農業普及のための農業訓練センター運営を含む)
- 植林●啓発●小学校運営●女性対象の奨学金(ハンガー・フリー・ウィメン・スカラシップ)
- 女子校対象のトイレ設置●養蜂●安全な水の確保●集中豪雨被災者緊急支援●農村開発委員会およびウィメン・エンディング・ハンガー国内会議●ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発●学校給食●女性対象の収入創出および権利啓発●女性対象の起業無償支援●母子対象のヘルスケアセンター●寒波救済支援(YEH)

植林 ●HFWは、環境保全と同時に人々の栄養改善や医療費削減にも役立つよう、果樹や薬効のある木の苗を無料で配布しています。

苗木を託される住民は、住民組織からの推薦にもとづき住民全員で決定。今年は21ヵ村で640世帯が計4034本を植林しました。植える時期と気候が上手く合い、90%以上の苗が枯れずに根をはりました。これは、植林を開始した2000年以来一番高い割合です。

また、植林の際には村のHFWボランティアがお祭りを企画し、人々の植林に対する意識を啓発しました。苗はその後も、住民の手で大切に育てられています。



女性対象の収入創出および権利啓発 ●22ヵ村

400名の女性を対象に、家畜飼育、縫製、小売店経営等の職業訓練を実施し、女性の能力強化を支援しました。また、自分たちで焼いたケーキを持ち寄って販売し収入を得るとともに、女性同士の交流を図る「ケーキフェスタ」など、家の外に出る機会の少ない女性たちが気軽に参加できる楽しい啓発イベントも実施しました。

バングラデシュの女性は社会的に厳しい立場に置かれていますが、これらの事業に参加した女性は、技術を習得して収入を得たことで自信を持ち、家庭内や地域で自分の意見を言えるようになっていきます。





ベナン

2007年4月に支部に昇格。

幼稚園から中学校までの教育を一貫して受けられるよう支援しました。

ベト村での幼稚園運営、識字教育、キャッサバ加工を継続しました。2007年9月に新学期を迎えた幼稚園には、3～5歳の3学年90名の子どもたちが通っています。手洗いなどの衛生管理、踊りなどの自己表現を伸ばす授業に力を入れています。園内には井戸も建設され（11月）、子どもたちが安全な水を利用できるようになりました。

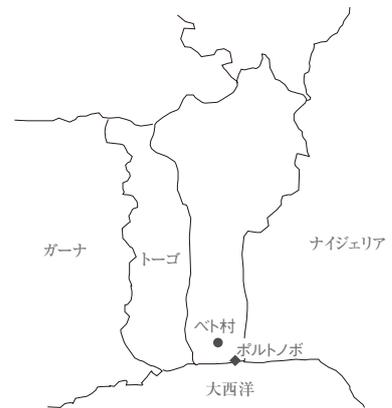
同じく教育分野では中学校のクラスを2教室から5教室に増設（10月）。HFWが活動を開始した2004年には小学校しかなかった村で、今年度から、幼稚園から中学校までの教育を一貫して受けられるようになりました。

YEHベナンが、メンバーを一新してから初

めての全国会議を実施（8月）。計60名の小中高生が参加し、青少年が抱える問題を議論し、YEHベナンの行動計画を作成しました。

また、日本からのスタディツアーを初めて受け入れました（8～9月）。

2007年4月に支部に昇格したHFWベナン。国を指定して支援するハンガー・フリー・パートナー制度も始まり、継続的な支援者も増えました。現地で申請中の国際NGO登録が完了することで、組織としての信頼性を高め、HFWの活動内容をベナン国内に広く伝え、地元NGOや政府機関とも連携を強めていくことが今後の課題です。



ベナン共和国 ●面積:11万2622km² ●主な産業:農業(綿花、パームオイル)、サービス業(港湾業) ●人口:876万人 ●言語:フランス語(公用語)
 ●宗教:伝統的宗教65%、キリスト教20%、イスラム教15% ●5歳未満児死亡率:1000人中148人 ●1人あたりの国民総生産:540米ドル
 ●平均余命:56歳 ●成人識字率:35% (参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2008」)

開発事業例

開発事業一覧

- 女性協同組合によるキャッサバ加工
- 青少年・成人対象の識字教育
- 幼稚園運営
- 井戸建設
- 中学校建設
- 母子栄養基礎調査

中学校建設 ●ベト村で中学校1校舎3教室を増設しました（10月）。

2004年にHFWが行った農村調査で、遠く離れた中学校への進学を断念している子どもたちが多いことが判明。奮起した村人たちは、2005年に寄付金を出し合って1校舎2教室を建設し、子どもたちが進学できるようになりました。しかし、その後は増える生徒にヤシの葉で簡易的に作った教室で対応していたため、雨天時には授業を行えないこともありました。

そこで、HFWが新しい校舎を増設。天候に左右されずに毎日授業を行えるようになり、現在、中学校3学年に合計250名以上の生徒が通っています。



母子栄養基礎調査 ●ベト村で保健衛生・栄養改善の分野で事業を進めていくため、5歳未満児と母親

962名を対象に栄養調査を実施しました（6月）。その結果、15.6%の子どもたちが危惧すべき栄養不良と判りました。また、慢性的な栄養不良の母親が育てている子どもの60%以上が低体重児でした。

男性が先に食事をとる習慣のあるベナン。子どもの発達に十分な栄養をとっていない母親が多いことが明らかになりました。

調査結果を踏まえ、今後は、HFWが運営する識字教室などを通し、栄養の知識や衛生管理などの啓発を強化していきます。



ウガンダ



栄養改善と収入創出分野の事業を精力的に展開しました。

これまで井戸・学校建設事業とHIV/エイズ啓発事業を中心に実施してきたウガンダで、2007年度は、住民の栄養改善と収入創出につながる農業指導に注力しました。飼料用トウモロコシの栽培指導（4月～9月）と養鶏（10月～）を組み合わせた事業を開始したほか、ネリカ米の栽培事業を実施（8月～1月）するなど、貧しい人々が農業技術を得て収入を増やし、収穫物を口にすることで栄養改善を図れるよう支援しました。また有機果樹植林を行い（8月）、内戦やHIV/エイズなどで男性の働き手を失った家庭の女性の自立を促しました。若者の職業訓練として、YEH

によるパイナップル栽培事業も継続しています。

井戸建設事業では、新たに公衆トイレ建設も開始。カブブ区で、外務省の日本NGO連携無償資金協力の資金による公衆トイレ7カ所の建設に着手しました（1月）。

運営面では、現地通貨に対する大幅なドル安を受けた本部送金分の目減り、原油価格上昇などによる物価高騰の影響を受け、財政的に苦しい状況が続きました。そこで、経費削減の一環として賃借していた事務所スペースを縮小しました（10月）。2008年度は、古く

なって修理費がかさんでいる車両を買い替える予定です。



ウガンダ共和国 ●面積:24万1000km²●主要産業:農業(コーヒー、綿花など)、鉱業(銅など)、工業(繊維など)●人口:2989万人
●言語:英語、スワヒリ語、ガンダ語、他●宗教:キリスト教60%、伝統宗教30%、イスラム教10%●5歳未満児死亡率:1000人中134人
●1人あたりの国民総生産:300米ドル●平均余命:50歳●成人識字率:67%(参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2008」)

開発事業例

開発事業一覧

- 井戸建設・管理研修
- カブブ区水と衛生
- 吉見百合枝記念小学校支援
- トウモロコシ栽培・養鶏
- ネリカ米栽培
- 改良カマド建設研修
- 女性対象の有機果樹植林(WEH)
- 青少年対象のパイナップル栽培(YEH)

トウモロコシ栽培・養鶏 ●ナッケデ区の貧しい住民40世帯を対象に、トウモロコシ栽培と養鶏事業を実施しました。

HFWは、トウモロコシの種と予防接種を済ませた地鶏を配布し、栽培と養鶏に関する研修を提供。住民たちは藪を開墾して畑を作りトウモロコシ栽培を行ったほか、身近に手に入る材料で自宅近くに鶏小屋を作りました（9月）。

収穫したトウモロコシを飼料用に製粉して養鶏を開始（10月）。卵は、各世帯1ヵ月あたり平均60個を販売して1万シリング（約675円）の収入になっているだけでなく、自分たちで食べることで家族の栄養改善にも役立っています。



ネリカ米栽培 ●アフリカの中でも肥沃な土地を持つウガンダ。現在、国を挙げて稲作が推進されています。また都市部や農村の一部でコメの需要が高まっています。そこで、HFWはルグジ区の100世帯を対象に、収量の多いアジアの稲と病害虫や乾燥に強いアフリカの稲を交配したネリカ米の栽培研修を実施し、種モミを提供しました（8月）。

研修後は、参加者が自分たちの畑で栽培を開始（9月）。一時日照りが続いたため、販売するだけの収穫は得られなかったものの（1月）、栽培技術を習得した住民たちの多くは、採れた種モミを畑にまき、栽培を拡大しています。



ブルキナファソ



Overseas Activities
海外の活動 07

乳幼児から小学生まで、栄養改善事業に力を入れました。

2007年度は、原油価格高騰などの影響を受けて物価が上昇し、例年より雨季が短く農業も不作。国全体として、貧しい人々が十分に食べ物を手に入れられない状況に陥っていました。そのような中、HFWブルキナファソは、子どもの栄養改善に全力を注ぎました。

国営の保健センターの協力のもと、乳幼児と妊産婦対象の栄養改善事業（CREN）を継続しました。事業開始から3年目。これまでにセンターで栄養不良児として登録された子どもは205名にのぼり、そのうち89名がこの事業を通して栄養不良状態から回復しました。

同地域の小学校では学校給食の提供を継続。昨年度始めに175名だった生徒数が、今年度は270名を超えました。また、給食の調理を行うお母さんたちのために調理場を改築し、地域のボランティアの継続的な参加を促しました。

2006年度に収入創出を目的として住民組織とともに開始した、養蜂と脱穀製粉機の管理も継続しています。脱穀製粉機を貸出運用することで、村の協同組合が定期的な収入を得られるようになりました。

運営面では、2008年度の支部昇格を目指し

ていましたが、運営基盤の強化に時間をかけることを選択。新しい事務局長を迎え入れ（3月）、2009年度支部設立に向けて準備を進めています。



ブルキナファソ ●面積:27万4200km² ●主な産業:農業(粟、とうもろこし、タロイモ、綿及び牧畜) ●人口:1435万人
●言語:フランス語(公用語)、モシ語、ディウラ語、グルマンチェ語、他 ●宗教:伝統的宗教57%、イスラム教31%、キリスト教12%
●5歳未満児死亡率:1000人中204人 ●1人あたりの国民総生産:460米ドル ●平均余命:52歳 ●成人識字率:24%
(参考資料:外務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2008」)

開発事業例

開発事業一覧

- 乳幼児と妊産婦対象の栄養改善(CREN)
- 協同組合支援
- 学校給食

乳幼児と妊産婦対象の栄養改善(CREN)

●クプリ郡にある国営の保健センターで、乳幼児と妊産婦対象の栄養改善事業(CREN)を継続しました。

同センターが対象とする11ヵ村には、5歳未満の子どもたち約4500人がいます。毎週水曜日に定期健康診断を行い、栄養不良児の診察と治療を行っています。今年度はバイクを購入し(8月)、出張診療によって、保健センターから離れた地域に住む栄養不良の子どもたちも検診できるようになりました。また、栄養状態が回復しないままセンターに通って来なくなってしまった子どもたちの家庭訪問・診察も行えるようになりました。



協同組合支援

●HFWの支援で設置されたワムテンガ村の脱穀製粉機の収益で、生活用品を扱う小さな売店を協同組合がオープンしました(12月)。

製粉機は村の協同組合が管理し、使用料を徴収。多いときには1週間で2万円にもなります。機械を動かすためのガソリン代や修理費用にあてるほか、余剰分を貯蓄してきました。

売店建設費用の一部をHFWが負担し、協同組合の貯金は石鹸など商品の仕入れに使われました。今後は、脱穀製粉機と売店で得た収益をさらに貯蓄し、協同組合で取り組んでいるマイクロクレジット(小規模貸付)の原資として活用する予定です。



2007年度 開発事業一覧

プロジェクト名/2007年度対象者数/期間/2007年度支援額[単位:千円]
a.会費・寄付から **b.**補助金・助成金額、助成団体名
 (一:費用がかからなかった、または現地調達、または前年度以前の送金による事業、
 YEH:青少年組織ユース・エンディング・ハンガーによる実施
 WEH:女性組織ウイメン・エンディング・ハンガーによる実施)



バングラデシュ

- 環境保全のための植林(持続可能な農業普及のための農業訓練センター運営を含む) /
 2007年9月~/200名/a.874 b.1,300緑の募金
- 植林/2000年 6月~/640世帯/a.155
- 啓発/2000年 4月~/約700名/a.247
- 小学校運営/2002年 8月~/300名/a.2,705
- 女性対象 の奨学金(ハンガー・フリー・ウィメン・スカラシップ)/2003年4月~/64名/a.217
- 女子校対象 のトイレ設置/2007年4月~2008年3月/3,000名/a.167
- 養蜂/2003年 1月~/20名/a.557
- 安全 な水の確保/2001年4月~/200世帯/a.167
- 寒波救済支援/2001年10 月~/600世帯/a.278
- 集 中豪雨被災者緊急支援/2007年11月~12月/220世帯/a.795
- 農村開発委 員会およびウイメン・エンディング・ハンガー国内会議/2003年12月~/74名/a.186
- ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発/2003年5月~/200名/a.2,152
- 学校給食/2003年 4月~/500名/a.1,213
- 女性対象 の収入創出および権利啓発/2001年4月~/400名/a.1,341
- 女性対象 の起業無償支援/2005年4月~/43名/a.167
- 母子対象 のヘルスケアセンター/2006年4月~/1,200名/a.368



ベナン

- 女性協同組合によるキャッサバ加工/30名/2004年12月~/一
- 青少年・成人対象の識字教育/60名/2005年1月~/a.1,986
- 幼稚園運営/90名/2006年10 月~/a.3,093
- 井戸建設/90名/2007年 6~10月/b. 1,844国際ボランティア貯金
- 中学校建設/180名/2007年6~10月/a.4,822
- 母子栄養基礎調査/900名/2007年 6~10月/a.1,174



ウガンダ

- 井戸建設・管理研修/960名/2007年10~11月/a.603
- カプブ区・水と衛生/10,000名/2008年1月~/a.6,682 b.9,555日本NGO連携無償資金協力
- 吉見百合校記念小学校支援/ 6名/2007年7月/a.384
- トウモロコシ栽培・養鶏/40世帯/2007年3月~/a.650
- ネリカ米栽培/100世帯/2007年8月~2008年1月/a. 145
- 改 良カマド建設研修/10世帯/2007年9月~/一
- 女性対象 の有機果樹植林(WEH) /60世帯/2007年8月~/a.399
- 青少年対象 のパイナップル栽培(YEH) /50名/2006年8月~/一

ブルキナファソ

- 乳幼児と妊産婦対象の栄養改善(CREN) /17,126名/2005年10月~/a.5,530
- 協同組合支援/125名/2006年 8月~/a.1,387
- 学校給食/270名/2006年10 月~/a.3,523



ユース・エンディング・ハンガー（YEH）とは

世界5ヵ国で活動するHFWの青少年組織。海外では若者を主な対象とした開発事業や啓発活動を、日本国内では中学生から大学生を中心としたメンバーが7地域で、チャリティイベントや募金活動、飢餓の終わりを訴える啓発活動に取り組んでいる。

Activities of Youth Ending Hunger ユース・エンディング・ハンガーの活動'07



「本州横断・愛の全国募金」にて。愛知では2日間で10万円を超える募金を集めた



YEHジャパンを代表して、ウガンダの国内会議でスピーチ

3ヵ国で若者の意思表示の場となる国内会議を開催。
日本からも代表を派遣し、連携を強める足がかりができました。

海外活動国では、YEHバングラデシュが年間を通じて、若者の職業訓練の促進を訴える政策提言を実施したほか、YEHウガンダがパイナップル栽培プロジェクトを継続。ベナンでは活動地ベト村の中学生～高校生を中心とする新グループが発足（2月）し、HFWが行う事業のサポートをしながら本格的な開発事業に取り組むための経験を積んでいます。

また、バングラデシュ・ベナン・ウガンダの3ヵ国で国内会議を開催（8月、11月）し、YEHジャパンから1名ずつを各国に派遣しました。国の違いを越えて絆を深めるとともに、これまでの支援による成果や今後の方向性を共有する機会となりました。なお、各国での国内会議は14の企業・団体と個人のみな

さんの協賛によって開催が実現しました。

YEHジャパンでは島根に活動グループが誕生（5月）し、活動地域は全国7ヵ所に拡大。高校生から大学生を中心とした若者たちが各地域でチャリティイベントや募金活動を行ったほか、全国一斉イベントとして全国7ヵ所の各グループによる街頭募金「本州横断・愛の全国募金」（1月）を実施しました。年2回の全国会議（8月、3月）では活動を創作し、普段は別々に活動するメンバーたちがYEHジャパン全体の行動計画や方針を話し合いました。また、会報誌「YEHラブ」（隔月）を発行しました。



バングラデシュでラリーを実施し、2021年までに飢餓をなくそうと訴えた。YEHジャパンのメンバーも参加



ベナンのYEHメンバー。HFWが運営する幼稚園の整備に協力



日本

- 面積37.7万km²
 - 人口1億2795万人
 - 5歳未満児死亡率:1000人中4人
 - 1人あたりの国民総生産:3万8410米ドル
 - 平均余命:82歳
 - 成人識字率:-%
- (参考資料:総務省ホームページ、ユニセフ「世界子供白書2008」)



ムリムティア ウガンダ (写真は料理教室編) (4月、10月、12月、3月)



HFW活動説明会 (毎月開催)

エンディング・ハンガー・ゲームを実施 (10月)



シンポジウム「アジアの貧困は終わったの?」開催 (8月)



グローバルフェスタ(グローバルフェスタJAPAN 2007実行委員会主催)にブースを出展 (10月)

イベント・
講師派遣・
EHG
エンディング・ハンガー・ゲーム

飢餓の現状やHFWの活動を伝え、行動を呼びかけるために、活動説明会やイベントを各地で開催。多くのボランティアによる自発的なイベントへの協力も行いました。

ボランティアが企画するイベントには、バングラデシュのチャリティカレーパーティ、ウガンダ料理を学ぶ料理教室、ベナンのカフェイベント、フリーマーケットへの出店、写真展などがあり、支援国の現状とともに文化も知ることができる多彩な内容でした。幅広い層に国際協力について知ってもらう機会となりました。

HFWバングラデシュ事務局長来日に伴い、シンポジウム「アジアの貧困は終わったの? ~2008年G8にむけて、アジアの人々が望む開発と連帯を考える~」(HFW、(特活)ほっとけない世界のまずしさ、2008年G8サミットNGOフォーラム共

催、8月)を実施。また、世界食料デー特別イベントとしてセミナー「私たちの食生活と世界の飢餓のつながり」(HFW、世界銀行情報センター共催、10月)、「エンディング・ハンガー・ゲーム」(HFW主催、10月)を行うなど、タイムリーなイベントの開催に努めました。

「アフリカンフェスタ2007」(外務省主催、5月)、「グローバルフェスタJAPAN2007」(グローバルフェスタJAPAN2007実行委員会主催、10月)をはじめ、多数の国際協力関連のイベントにも出展しました。

学校や企業・団体には依頼を受けて、飢餓の現状やHFWの取り組みを紹介するための講師を派遣。また、学校で取り組んでいる国際協力に対するサポートの一環として、中学生の事務所訪問を受け入れました。

啓発・政策提言

飢餓・貧困問題の解決に大きな影響力を持つ2つの国際会議、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）と北海道・洞爺湖G8サミットを翌年に控えた2007年。HFWは「TICAD IV・NGOネットワーク（TNnet）」「2008年G8サミットNGOフォーラム」など、政策提言を行うネットワークに積極的に参加しました。第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）本会議に向けてアフリカで行われた地域準備会合には、本部職員を派遣しました（11・3月）。

世界的な貧困根絶キャンペーン「GCAP」の日本版「ほっとけない 世界のまずしさ」キャンペーンに継続して参加。国連ミレニアム開発目標（MDGs）の達成を目指す世界同時アクション「STAND UP SPEAK OUT」（STAND UP SPEAK OUT実行委員会主催、10月）では実行委員を務め、貧困をなくすために私たち一人ひとりが行動することの大切さを伝えました。



チュニジアでのTICAD IV地域準備会合にて、アフリカの市民社会代表と一緒に（11月）



ガボンでのTICAD IV地域準備会合前日、会合で発表する市民社会からの提言を話し合うアフリカと日本のNGO（3月）

また国連ミレニアム開発目標（MDGs）を意識した企業の社会的責任（CSR）活動の普及を主な目的とした「CSR推進NGOネットワーク」の立ち上げメンバーとして、設立準備を担いました。



HFWホームページ



写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース



年次報告

ポスター

ハンガー・フリー・ニュース



ボランティアや国際協力について書かれたさまざまな書籍や発行物がHFWを紹介

情報発信

インターネットを中心とした各種媒体によって、活動紹介、入会・寄付の呼びかけ、ボランティア募集、イベント告知を積極的に行いました。

「年次報告書」（8月）、情報誌「ハンガー・フリー・ニュース」（5・8・1・3月）を76号から79号まで発行。ポストカードによる「写真で伝えるハンガー・フリー・ニュース」（5・10月）を15号、16号、メールマガジンを月刊で発行しました。1ヵ国を選んで支援する会員、ハンガー・フリー・パートナーへの報告も随時行いました。

また、2007年度から導入した定期的な寄付制度「ひとつぶ募金」のホームページを新たに開設し、寄付の呼びかけや支援者への報告を行いました。

スタディツアー

支援先のウガンダを訪問するスタディツアー（8月18日～26日）を実施し、6名が参加しました。ベナン・ブルキナファソでは初の試みとして現地集合・解散型のスタディツアー（8月10日～9月8日）を実施し、期間中に8名が現地を訪れました。

支援する側、される側の立場を超えて、参加者と現地住民が交流。それぞれが飢餓を終わらせるために何ができるかを考え、パートナーシップを確かめました。



ウガンダで事業地の子どもたちと折り紙で交流



YEHベナンのメンバーと記念撮影



株式会社フェリシモが販売する指輪「アルモンドリング」。売り上げの19%がブルキナファソの学校給食事業に寄付される



リー・ジャパン株式会社のウガンダ産デニム製品。売り上げの2%がウガンダでの井戸建設事業に寄付される

全国から寄せられた書損じハガキを仕分けする
カウントボランティアのみなさん



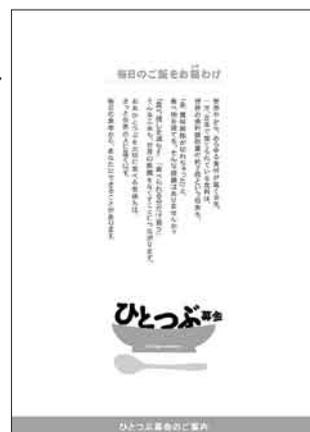
支援者の拡大

食べることの大切さに触れながら、活動国での栄養改善事業に役立てることを目的とした、新しい定額寄付制度「ひとつぶ募金」を開始（10月）。3月末までに73口（1口1000円/月）の申し込みが寄せられました。またオンラインでのクレジットカード決済制度を導入し、会費や寄付の支払いをより簡単に行っていただける環境を整えました。

気軽に国際協力に参加していただけるプログラム「書損じハガキ

会員数 1166名	ハンガー・フリー・パートナー …………… 100名
	グローバル・ファミリー …… 一般/884名 学生/152名
	法人 …………… 30社
(2007年度内在籍数)	
寄付者数	個人・企業・団体 …………… 371名 ひとつぶ募金参加者含む

ひとつぶ募金のチラシ



回収キャンペーン」も継続。第6回（2007年1月～5月）は、個人1万4787名、企業・団体98組織のみなさまから書損じハガキや中古CDなどが寄せられ、換金した結果、キャンペーン過去最高の4049万65円の支援金となりました。

企業とのチャリティイベントやボランティア体験を実施したほか、商品の売り上げの一部がHFWの事業費にあてられる社会貢献プログラムより支援を受けました。

会費収入は、前年度の法人会員数が伸びて全体として増加しましたが、個人会員を含む総会員数は減少となり、次年度の課題として残りました（会費収入前年度比101%、会員数前年度比97%）。

全体収入は1億2923万円（前年度137%）となり、HFW設立以降最高の収入となりました。

組織運営

インターンと専門的な技術を活かしたボランティアや多くの事務作業ボランティアの参加によって、経費を削減でき、国内海外ともに質の高い事業を行うことができました。

各ボランティアグループも、自主的に多数のイベントを企画しました。

組織力強化のため、NGO人材育成研修（10～3月、JICA主催）に参加。全体研修を通じて広報や資金調達技術を学びました。同研修の枠組みを活用して他団体から講師を招き、アドボカシーの手法を学ぶワークショップを事務局内で開催しました（2月）。また「世界の飢餓と日本の食生活」をテーマとするHFWのアドボカシー活動の方向性や戦略作りに着手しました（2～3月）。

会計の精度や透明性を高めるために、本部の外部会計監査を昨年に引き続き実施したほか、各支部でも外部・内部会計監査や準支部の内部会計監査を実施しました。ブルキナファソにおいては2009年度支部昇格に向け現地事務所の人員体制や資機材を見直しました。

業務拡大に伴い、本部事務所を移転しました（3月）。これにより、HFWが参加するNGOネットワークの打ち合わせに本部事務所を使用するなど、他団体との交流を促進する効果も得られました。

業務全般においては、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）や北海道・洞爺湖G8サミットに向けたアドボカシー活動業務が増加する中で人員体制が整わず、職員の休暇が取得できない状況が慣例化するなど、次年度への課題が残りました。



「世界の飢餓と日本の食生活」を考えるワークショップ。職員のほか、ボランティアや企業の協力を得、より広い視点で討論が行われた。

人 材	正会員 …………… 46名
	役員 …………… 理事6名・監事1名
	職員 …………… 専従9名・非専従1名
	インターン …………… 15名
	ボランティア
	・ハンガー・フリー・クラブ …… 9クラブ
	ハンガー・フリー・ワールド長野
	キッズ・エンディング・ハンガー
	ノボディゴント
	ハンガー・フリー・OKINAWA
	TTV Weble Foundation
	ハンガー・フリー・いけばな小原
	ハンガー・フリー・板橋
	ハンガー・フリー・フリマ倶楽部
YEH愛知 OB・OG会	
・事務作業（登録数）…………… 34名	
・翻訳・通訳（登録数）…………… 40名	
・イラスト・デザイン・記者 …… 14名	
・バングラデシュチーム …… 16名	
・ベナンチーム …… 10名	
・ウガンダチーム …… 12名	

(2007年度のべ数)

*その他、多くの方にさまざまなご協力をいただきました。

特定非営利活動法人
ハンガー・フリー・ワールド

2007年度決算報告書

収支計算書

2007年4月1日～2008年3月31日

[単位:千円]

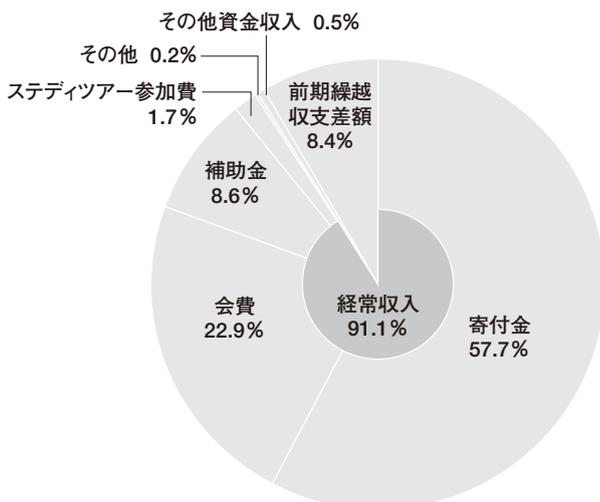
資金収支の部

I 経常収入の部		
1 会費収入	32,452	
2 寄付金収入	81,883	
3 補助金収入	12,150	
4 スタディツアー参加費収入	2,471	
5 その他の収入	274	
経常収入合計		129,230
II 経常支出の部		
1 事業費		
海外支援事業費	75,382	
国内活動事業費	30,494	
スタディツアー事業費	2,471	
2 管理費		
	21,887	
経常支出合計		130,234
経常収支差額		-1,004
III その他資金収入の部		
差入保証金返還収入	752	
その他資金収入合計		752
IV その他資金支出の部		
差入保証金支出	3,074	
建物付属設備購入支出	965	
器具備品購入支出	364	
保険積立金購入支出	246	
その他資金支出合計		4,649
当期収支差額		-4,901
前期繰越収支差額		11,835
次期繰越収支差額		6,934

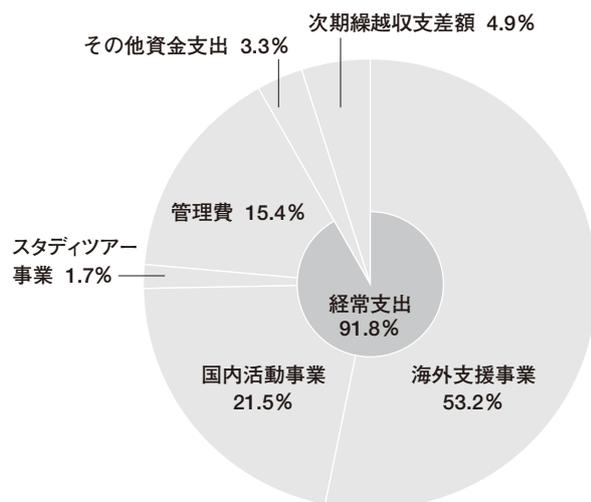
正味財産増減の部

V 正味財産増加の部		
1 資産増加額		
差入保証金増加額	3,074	
建物付属設備増加額	965	
器具備品増加額	364	
保険積立金増加額	246	
増加額合計		4,649
正味財産増加合計		4,649
VI 正味財産減少の部		
1 資産減少額		
当期収支差額	4,901	
差入保証金減少額	752	
電話加入権減少額	197	
器具備品減価償却額	179	
器具備品除却損	11	
長期前払費用減少額	3	
減少額合計		6,043
正味財産減少合計		6,043
当期正味財産増減額		-1,394
前期繰越正味財産額		15,330
当期正味財産合計		13,936

収入



支出



貸借対照表

2008年3月31日現在

[単位:千円]

資産の部	
1 流動資産	
現金	282
普通預金	3,477
未収入金	6,424
前払金	24
貯蔵品	58
流動資産合計 10,265	
2 固定資産	
建物付属設備	965
器具備品	2,041
減価償却累計額	-1,334
差入保証金	3,073
保険積立金	2,257
固定資産合計 7,002	
資産合計 17,267	

負債の部	
1 流動負債	
未払金	3,288
預り金	43
流動負債合計 3,331	
2 固定負債	
	0
固定負債合計 0	
負債合計 3,331	

正味財産の部	
前期繰越正味財産額	15,330
当期正味財産増減額	-1,394
正味財産合計 13,936	
負債及び正味財産合計 17,267	

2007年度監査報告書

特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド2007年度
決算報告書は監査の結果、適正にして妥当であることを認めます。

監事 仁島 鏡一

2008年6月14日

事業費支出の内訳

1 海外支援事業費		2 国内事業費	
環境保全のための植林	バングラデシュ 2,174	広報	5,256
植林	バングラデシュ 155	啓発	3,902
啓発	バングラデシュ 247	資金調達・募金活動	19,802
小学校運営	バングラデシュ 2,705	ユース・エンディング・ハンガー・ジャパン活動費	1,534
女性対象の奨学金(ハンガー・フリー・ウィメン・スカラシップ)	バングラデシュ 217	合計	30,494
女子校対象のトイレ設置	バングラデシュ 167	3 スタディツアー事業費	
養蜂	バングラデシュ 557	バングラデシュスタディツアー	879
安全な水の確保	バングラデシュ 167	ベナン・ブルキナファソスタディツアー	888
寒波救済支援	バングラデシュ 278	ウガンダスタディツアー	704
集中豪雨被災者緊急支援	バングラデシュ 795	合計	2,471
農村開発委員会およびウィメン・エンディング・ハンガー国内会議	バングラデシュ 186	管理費支出の内訳	
ビジョン・リーダーシップ・パートナーシップ促進啓発	バングラデシュ 2,152	人件費	14,047
学校給食	バングラデシュ 1,213	居住費	1,862
女性対象の収入創出および権利啓発	バングラデシュ 1,341	事務費	1,907
女性対象の起業無償支援	バングラデシュ 167	通信費	889
母子対象のヘルスケアセンター	バングラデシュ 368	旅費交通費	826
青少年・成人対象の識字教育	ベナン 1,986	報酬等	1,260
幼稚園運営	ベナン 3,093	年会費	154
井戸建設	ベナン 1,844	その他	942
中学校建設	ベナン 4,822	合計	21,887
母子栄養基礎調査	ベナン 1,174	<p>※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは「公益法人会計基準」に基づいて会計処理および財務諸表の作成を行っています。</p> <p>※資金の範囲には、現金・預金・未収入金・前払金・貯蔵品・及び、未払金、預り金を含めます。</p> <p>※特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドは東光監査法人による外部監査を受けており、監査報告書を受領しております。</p>	
トウモロコシ栽培・養鶏	ウガンダ 650		
女性対象の有機果樹植林	ウガンダ 399		
ネリカ米栽培事業	ウガンダ 145		
井戸建設・管理研修	ウガンダ 603		
カブ区・水と衛生	ウガンダ 16,237		
吉見百合校記念小学校支援	ウガンダ 384		
乳幼児と妊産婦対象の栄養改善	ブルキナファソ 5,530		
学校給食	ブルキナファソ 3,523		
協同組合支援	ブルキナファソ 1,387		
支部運営費	13,443		
準支部運営費	4,748		
ユース・エンディング・ハンガー活動費	2,525		
合計	75,382		

概要 (2008年7月現在)

私たちは今、飢餓のある世界にいます。飢餓が原因で亡くなる子どもは5秒に1人、空腹のまま眠りにつく人は8億6100万人……。

ハンガー・フリー・ワールドは、飢餓のない世界を創るために活動する、特定の思想・宗教・政治的意志から独立した市民組織です。目指すのは、この地球に生まれてきたすべての人が飢えることなく、精神的にも豊かで、希望を持てる世界を創り出すこと。私たち一人ひとりが飢餓のある世界に暮らしていると認識し、共にビジョンを創作し、協力して働くという「共創協働」の理念のもと、開発途上国では、教育、医療、職業訓練、農業指導などを行い、飢餓に直面する人々の自立を支援しています。世界中においては、飢餓を自分の問題として考え、行動することを市民に呼びかけています。日本では、イベントや飢餓の現状を学ぶシミュレーションゲームの開催、学校への講師派遣などを行っています。

設立は1984年4月。アメリカに本部を持つNGOの日本支部として活動を開始しました。2000年6月には、日本に本部を置く国際協力NGOとして、

- ① 途上国における開発事業の本格的な実施、
 - ② 次世代を担う青少年の主体的な貧困撲滅活動の支援継続、
 - ③ 市民活動としてより広い層の人々への参加の働きかけ、
- などを行うために独立、組織変更しました。

2000年9月には特定非営利活動法人の認証(内閣府)を受け、現在アジア・アフリカの5ヵ国で活動しています。



●活動国5ヵ国

●本部

〒102-0072
東京都千代田区飯田橋4-8-13山商ビル7階

●国内支部事務所

横浜
〒220-0072
神奈川県横浜市西区浅間町3-222
名古屋
〒466-0059
愛知県名古屋市長区福江2-13-1
京都
〒602-0898
京都府京都市上京区相国寺門前町708

●海外支部

バングラデシュ、ベナン、ウガンダ

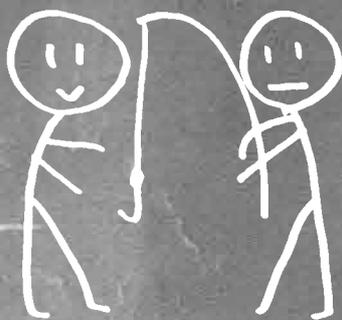
●準支部

ブルキナファソ

●役員

理事長	河合政実	株式会社 テレナコーポレーション代表取締役社長	理事	渡瀬のり子	特定非営利活動法人 TICAD市民社会フォーラム理事/ 株式会社テクノ・スタッフチーフアドバイザー
副理事長	齊藤恵一郎	住和不動産株式会社代表取締役		渡邊清孝	特定非営利活動法人 ハンガー・フリー・ワールド事務局長
理事	犬島由香里	株式会社 井上技研専務取締役	監事	上島鋭一	株式会社 上島総合経営事務所取締役
	星野直	株式会社 丸進不動産代表取締役社長			

(役職ごと50音順)



貧しい人々が、自分たちの力で
生活を改善できるよう手をかしてあげれば、
私たちの支援が何倍にも生きてきます

hunger free world 飢餓のない世界を創ろう

2007年度版年次報告 2008年7月1日発行

発行人 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド理事長 河合政実

編集人 内山綾子 編集 立山誓一(ボランティアスタッフ)

制作 川村昌 印刷 島津印刷株式会社

発行所 特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル7階

TEL 03-3261-4700 FAX 03-3261-4701 平日10:00-21:00 土・日・祝10:00-18:00

E-MAIL hfwoffice@hungerfree.net URL <http://www.hungerfree.net/>

寄付金振込先 三菱東京UFJ銀行 神保町支店(普)1053953

郵便振替 00130-6-192373 口座名 ハンガー・フリー・ワールド

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます

